

炎環

永井路子著

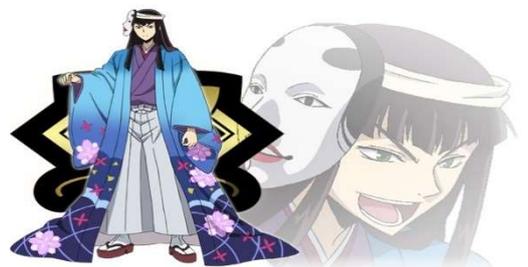


あらすじ と 読後感想

時代は公家から武士の時代へ。

平家が倒され源氏へと移り、権力争いが始まる。あの手この手の策略により成功した者、或いは自らの策に溺れて去る者もある。情熱と野望の生き様を見事に描いた小説。どの章も一人を主役の様に書きながらも登場人物が皆、主役の要素を持っている。頼朝、政子、保子、義経など炎環とあるように炎がまわりまわって夫々の人物を焼き尽くすようである。

短編ながら結構、話が重い。今世紀になっても人間の争いは絶えない。権力の為か欲の為か或いは名声の為なのか？ 又、女性は決して弱者ではない。政子、牧の方、あわの方等、歴史の表舞台には出ないけれど、女性の存在が歴史を作る様がよくわかった。





9 月

暑い夏も過ぎゆき、いよいよ2学期が始まった。

夏休みは、3冊の中から好きな本を1冊選んで読むことになった。

天共にあり (中村 哲著)

櫛引道守 (木内 昇著)

クララとお日さま (カズオイシグロ)

今年も秋の学園祭に向けて、早速、学習の発表をする課題の本を決めなければならない。皆で希望を出し合った結果、以下の5冊に決定した。

- ◆ 天 共にあり 中村哲 NHK 出版
- ◆ 櫛引道守 木内昇 集英社
- ◆ クララとお日さま カズオイシグロ 早川書房
- ◆ 炎環 永井路子 文春文庫
- ◆ ターシャ・デューダの言葉 メディアファクトリー

炎環は9月10月の課題として深読みする。尚、10月は少し肩の力を抜いて詩集の中から、金子みすゞ、相田みつおの詩集を加えて読んでいく事に決まった。

